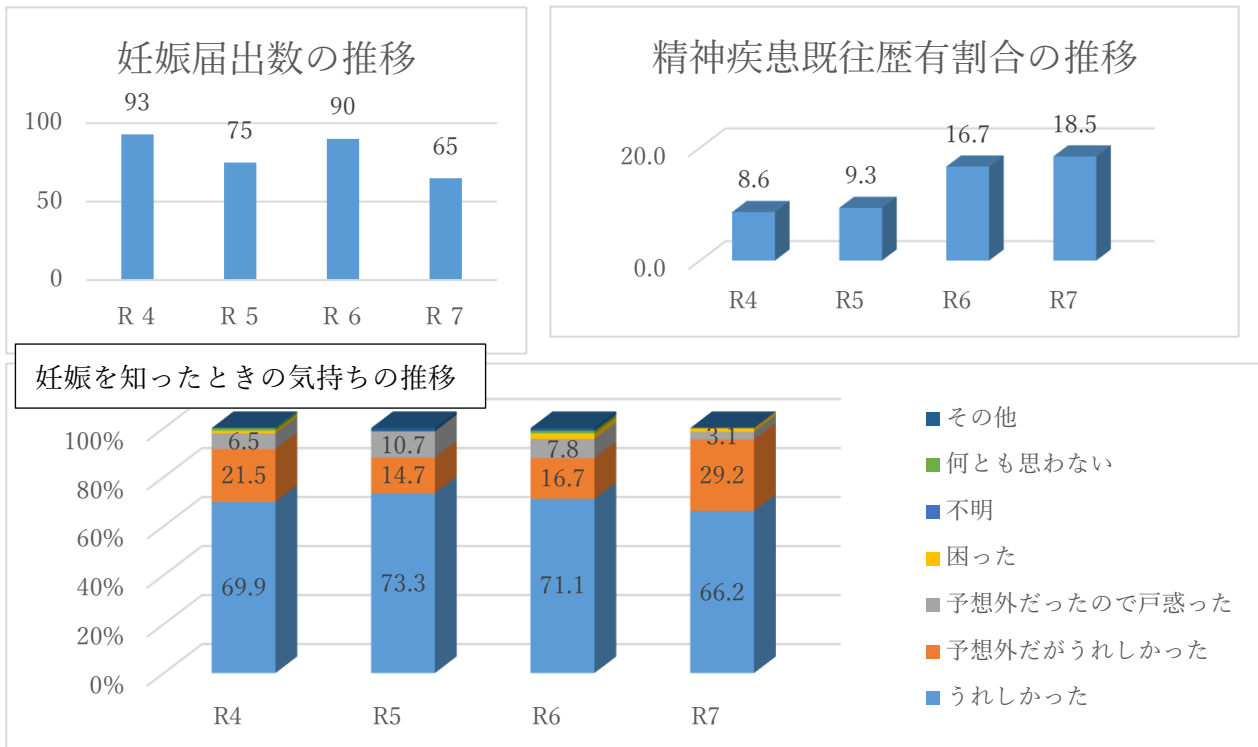


●令和7年度 母子保健 事業報告

- ・妊娠期、乳幼児期の個別面接によるサポートプランの提案 延71件
(母子保健36件、児童福祉35件)
- ・合同ケース会議 定例6回／年 臨時28回／年



- ・伴走型支援：妊娠6～7か月のアンケートを74人に対し送付し100%の返却あり。面談希望ありが4人いた。希望がなくても電話・面接・訪問をあわせて63.5%の妊婦に実施した。
- ・継続支援が必要な方の割合が増えている。乳児相談：約6割、幼児健診になると約8～9割となる。
- ・齲歯の保有者は1歳半健診で1人1本が2歳児歯科健診では5人11本、3歳児健診12人35本と年齢があがるにつれ、う歯の総本数、保有者ともに増加傾向。毎日保護者が仕上げ磨きをする習慣のある者は昨年83.0%だったのに対し、今年度は77.4%に低下した。また、むし歯がなく、かつ口腔環境がよい人は受診者の10.4%と1割程度と少なく、甘い飲料やおやつを食べている人が多い。乳児期からの仕上げみがきの徹底、う歯予防の取り組みが必要である。

●令和8年度 母子保健 活動計画

①支援方法の充実

妊婦から乳幼児の保健活動（電話、面接、訪問）を継続して実施。

サポートプラン様式の見直しを行い、対象者自身が主体的に子育てをできるようにする。

②う歯予防

齲歯の罹患率が多いのと仕上げ磨きの実施率が低いのが課題である。健診受診者に対して、齲歯予防への意識調査を行い今後の事業への展開に活かす。

③事故予防

タバコの誤飲や、やけどの事故報告があがったことから、各健診会場や訪問活動において啓発活動を行う。